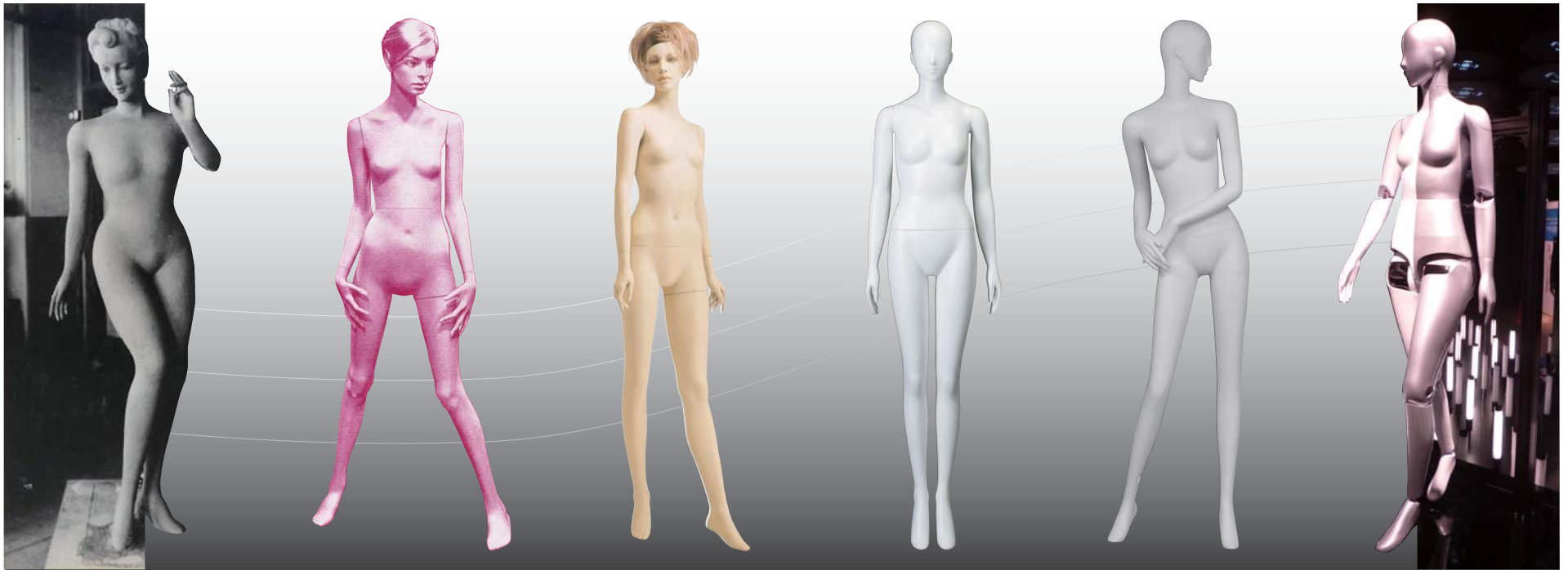


Mannequin History ～マネキンの歴史～



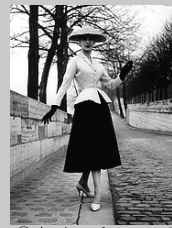
YOSHICHI MANNEQUIN

1940-1949
S15-24

1946年(昭和21年)

戦時中、製造禁止となっていたマネキンの生産は、吉忠マネキンをはじめ数社がいち早く再開した。当時のマネキンのプロポーションはふっくらした胸、50cm前後という極端に細いウエストをもち、ポーズも佞まじやかな優美さを基調にしたものでした。京人形の技法を取り入れ楮製紙による胡粉みがきのマネキンでした。

- 45- ポツダム宣言受諾
(第二次世界大戦終結)
- 46- 日本国憲法公布

○クリスチャン・ディオールの
ニュールック

- 49- 新制大学制度実施
- 湯川秀樹ノーベル賞受賞

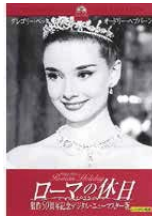
1950-1959
S25-34

1950年代

終戦後ようやく繊維製品が自由化された50年代、人々は「衣生活の充実」を求め、"糸へん景気"がスタートした。

50年代後半、百貨店では「イメージオーダー」が隆盛を誇り、見本品を展示するのにマネキンは不可欠となり婦人服のフロアには数十体、多いところで数百体のマネキンが林立した。ファイバー製マネキンの発展期であり、黄金時代の幕開けである。

- 50- 金閣寺炎上
- 53-NHK、東京テレビ、放送開始
- 54- アメリカ映画「ローマの休日」



1959年(昭和34年)にポリエステル樹脂(F・R・P)を材料とするマネキンが誕生し、ファイバー(楮製紙)マネキンに終止符が打たれた。

- 56- 石原慎太郎「太陽の季節」

- 58- 東京タワー完成



- 59- 皇太子ご成婚



○パリモード続々上陸



○ロングスカートが世界的に流行



○アメリカンスタイル全盛期

1946 吉忠株式会社(1875/明治8年創業)
マネキン部として製造販売を行う。

1952 吉忠マネキン(株)に社名変更。1955 梅津に工場を移転。



アトリエでの原型制作風景。



制作室での、塗装・メイクの仕上げ風景。

楮製紙を使用して
マネキンの製作。

顧問- 東郷青児のマネキン原型



1950年代のマネキン乱立風景



1950年代、婦人マネキン。



1950年代、ベビー・和装マネキン。

1960-1969
535-44

1960年代

今は見られない義眼の入ったマネキンがイージーオーダー全盛の時代、百貨店の売り場に林立する。

マネキン各社は、新素材FRPを開発。以後、ファイバー製にとって代わる。

イージーオーダーは拡大の一途をたどり、吉忠マネキンはマネキンの長期レンタル制度に着手した。マネキン一体の値段が高かったため、長期レンタル制は他業者にも急速に普及した。

60年代後半のファッションは「ミニ・ルック」。

後年、わが社が買収することになる世界のトップブランド、英国「アデル」社は「ミニスカートの女王」ツイギーをモデルにマネキンを製作、世界中の注目を浴びた。国内のマネキン業者からもツイギーを意識したマネキンが次々と発表された。既製服産業が主流となり、標準サイズの既製服を着るマネキンが必要とされ、次第に人間に近いプロポーションへ変わっていった。

●60- カラーテレビ放送開始



●61- ケネディー大統領就任

●63- ケネディー大統領暗殺

●64- 新幹線開通
- 東京オリンピック開催●66- ビートルズ来日
- 中国で文化大革命勃発●67- ヒッピー・ファッション流行
この頃、ジーンズとTシャツ
が若者のユニフォーム化

●69- アポロ11号月面着陸成功



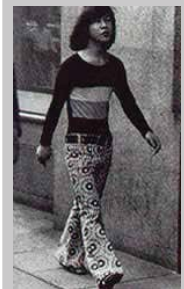
○シンプルデザイン



○ユニセックス

○パンティーストッキング発売

○三宅一生、東京で初めてのコレクション発表

○マリー・クワントがミニスカートを作り始める
ミニスカートが話題に

○サイケデリック・ムーブメント

1960年代のマネキン原型



1960



1961



1962



1965



1966



1967



1968



1969 義眼マネキン



英国『アデル』社、ミニスカートの女王「ツイギー」マネキン



1960年代 各地で催された展示会風景



1960年代 義眼マネキン



1970-1979
545-54

1970年代

かつて百貨店の売り場に林立したマネキンは、ジーンズやTシャツなどのカジュアルファッション浸透・拡大と同時に代表的なサンプルを着せるだけとなり、激減した。代わって活躍したのが「オブジェ・マネキン」、人間を抽象化した展示器具が人気を集めた。同時に、既製のサイズ展開の必要性からハンガーでの展示が売り場を占め、ハンガーラックをはじめとしたシンプルな什器の開発が積極的に進められた。アメリカから導入されたマーチャイズプレゼンテーション（MD）に吉忠マネキンはいち早く着目し、このコンセプトにのっとった売り場づくりをお得意先に提案し、VP（ビジュアルプレゼンテーション）においてマネキンは欠かせないものと提唱する。

やがてVMD（商品政策をビジュアルに訴求する）の到来により、ファッションのテーマ・イメージをトータルに表現できるマネキンが使用されるに至る。

又、英国・『アデル社』はパリのファッションショーで活躍する「山口小夜子」を東洋人初のマネキンモデルに起用。オリエンタルな雰囲気を出し出す小夜子マネキンが一世を風靡する。

- 70- 大阪万国博覧会開催
- ウーマンリブ運動全盛
- アンアン創刊

- 71- ドルショック
- ノンノ創刊

- 72- 札幌冬期オリンピック



- 73- 第一次石油ショック

- 74- 新宿西口に超高層ビル

- 75- 第2次ベビーブーム

- 76- ロッキード事件



- 77- 「サタデーナイトフィーバー」で
ディスコブーム

- 78- 成田国際空港開港

- 79- 東京サミット
- 第二次石油ショック



○ジーンズが爆発的流行、
ファッションのユニセックス化



○ミニスカート・ホットパンツ・シャツブラウス



○サファリルック



○フォークロアファッション

○ピンクレディ人気



○フィフティーズ
ニュートラ、ハマトラ大流行



1974 スーパースター



1974 DECO 30



1977 AT



1978 SAYOKO



1979 TWIRL & SHADOWS



1971 義眼マネキン



1973 マネキン創設者 吉村 勲の人形



1974 ロマナ



1974 WALK YOUNG



1971 FRP のオブジェ



1976 オブジェマネキン



1974 ピエールカルダン什器



1974 ガラス什器

1980-1989
555-64

1980年代

これまでマイナーだった日本人デザイナーにスポットが当てられ、DCブランドブームが到来。

ビギ・ニコルなどが人気を集め『カラス族』と称され、ハウス・マスカンの登場で再びマネキンの需要が落ちる。

後半には自己を主張するキャリアウーマンが台頭し始める。肩パットの入ったファッションウェアを着こなせるマネキンが売り場のメインに、そしてショーウィンドーのVPとして必要不可欠な存在となる。

やがてこの動きは、高級・高額インポートブランド時代を招く。

74年、わが社が「アデル」を導入して以来、同業他社においても円高の影響もあって、海外企業との提携がさらに促進された。

又、日本からの輸出も増大し、国籍を問わないグローバルな表現方法が求められた。

VP、VMD展開により、多彩なキャラクターのマネキンの需要が高まり、不可欠なものとなった。

又、美術館や博物館、民族博物館などに設置され、歴史展、衣装展などの展覧会の数々の場でマネキンの活躍分野が広がった。

●80- イランーイラク戦争勃発
(～88)●81- チャールズ皇太子、
ダイアナ・スペンサーと結婚

●83- 東京ディズニーランド



●84- ロサンゼルスオリンピック



●85- 科学万博 85〔つくば市〕

●86- チェルノブイリ原発事故

●87- 国鉄民営化

●89- 横浜ベイブリッジ

- 幕張メッセ

- 昭和天皇崩御、平成に改元



○竹の子族全盛

○カラス族山本耀司、川久保玲、
パリで初コレクションを発表

○ニュートラ・女性がメンズ物着用



○ワンレン、ボディコンがブームに



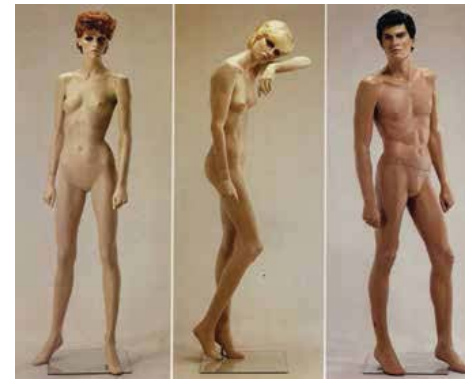
1982 MS.TRACY LEIGH



1981 スパーク



1985 アドバンスヤング ロージィ



1982 BODY GOSSIP



1986 アールコンボ

1986 COCO



1987 CAREERS



1986 PLACES AND SPAES



1989 COMPO MASAKO



1980年代 マネキン製作風景

1990-1999
S65-H10

1990年代

バブル崩壊後の消費市場は等身大の生活、堅実路線を歩み始めた。手頃な価格であっても目の肥えた消費者は手を出さない。売れないから慎重になる売り手側・作り手側。この悪循環がさらに市場を冷やした。

世界的に「エコロジー」が叫ばれ、リサイクルが進む中、同業他社は紙をFRPの代替素材として開発した。一方、吉忠マネキンは紙独特の質感を追求したマネキンを開発する。

マーチャンダイジングに融合した、オーダーメイド・マネキンの需要が増大し、マネキンは復活の兆しを見せ始める。

92年（平成4年）、わが社は英国「アデル社」を買収し注目を集める。

グローバル化や世界基準化理念が世界中に浸透し、ボーダーレスの中、黒人や褐色人種をモデルにしたマネキンが登場。

又、MD（小売店舗の販売商品計画）を表現するためのマネキンが登場し、オーダーマネキンも盛んに創られる。

●91- 東京都庁完成



○ヒップホップ



●93-J リーグ開幕



●95- 阪神淡路大震災
- 地下鉄サリン事件



●96- ディックス東京ビーチ
〔お台場〕

●97- 消費税 5%引き上げ

●99- パレットタウン・
ビーナスフォート 〔お台場〕

○ストリート系
インディーズブランド



○グランジ



○アジアンルック



○コギャル・ヤマンバギャル



SHAPING THE '90



1996 MAN/WOMAN



1999
JODIE KIDD



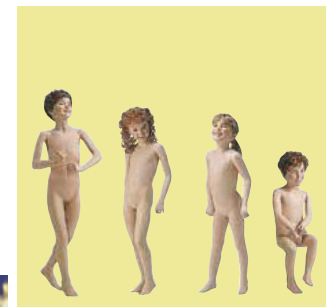
1993 GIRL FRIENDS



1998 PARTNERS



1999 NOMADS



1990 子供マネキン

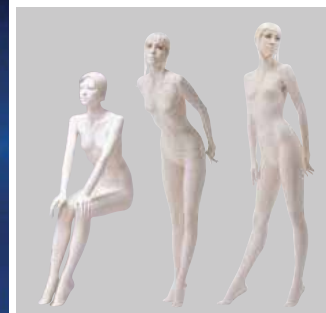


1990 MAYA



1992 ROMANARTEC

1995 笑うマネキン



1998 KAO et BALI



1999 PARIER COLLECTIONS



RIE/YUKA/YUKI/KOHEI

2000-2009 H11-H21

2000年代

90年代に引き続き、わが社は自然還元型のエコロジーマネキンと仕器を開発した。手漉き和紙で作ったマネキンと紙製の仕器の「バビエコレクション」。簡単に燃やせて有害ガスが出ない、地球に優しい商品。他社も、FRPに代わるリサイクル商品を用いたマネキンの開発を進めている。

又、2002年より世界一のデパートシェアを持つマネキン「ROOTSTEIN」「ROMANA」やボディ、今最も注目を集めるLEDなどを使用した照明関連商品や、係りのある企業の新素材・製品を集め「EXPO」を開催した。抽象マネキンが多くのウィンドーやショップに採用され食傷気味になっている中で、2009年新しいニーズを開拓するスカラブチャーマネキン「NEO」を発表。

●00-IT 革命

●01- ユニバーサルジャパン - 東京ディズニーシー

-9.11 事件



●03- 六本木ヒルズ



●06- 表参道ヒルズ



●07- 東京ミッドタウン - 新丸ビル



●08- リーマンショック - 北京オリンピック



○キャミソール

○アシンメトリスカート



○ストリートファッション



○ボヘミアンルック

○ミュール



○セレブファッション



○ファストファッション



2000 CANDY



2001 PLUS



2002 PLUS



2002 PLUS HOMME



2002 ERIN



2002 ~ Oh!Mikey



2004 POSITIONS



2005 MATURE



2006 STYLE LINE



2006 HEADLESS



2007 SECRETS



2007 EXPO 会場風景



2008 AGYNESS



2009 NEO

2010-2019
H22-R1

2010年代

リーマンショック後、アパレル業界の産業構造も大きく変化し、量産・低価格のGAPやUNIQLOなどのSPA（製造小売）が急速に台頭した。これにともなったファッション製品全般の価格下落とともに、低価格の抽象マネキンが商業空間を席巻し、わが社においても中国への生産シフトを進めることとなった。

また、開発においても2010年からは、既製品の主力として毎年抽象マネキンの新作を発表するようになった。

一方で、リアルマネキンの伝統を絶やせぬよう、「プレミアムアデル」というカテゴリを発売し、1980年代から1990年代の黄金期の商品を復刻保存しつつ、市場へ投入する呼びかけも行っている。（2016〜）

さらには、ロボット産業の開発活性化と市場拡大を背景に、「動くマネキン」QLOGOを2015年に発表し、業界全体に大なる反響を呼ぶこととなった。

初代から2代目までは、あくまで参考商品としての展示に留まったが、2017年には動きを首部のみに限定し「HEAD QLOGO」としてわが社初の動くマネキンのレンタルを実現するに至った。

現状の最新型「QLOGO REACTIVE」は上半身の可動に加え、会話機能とLEDの色による感情表現を装備している。

そして、マネキン本体の進化ではないが、既存のAGV技術と組み合わせ「Auto Guided Stage 'MAI」 という最新技術と連動し、いよいよマネキンは2019年に「移動」という機能を手にすることになる。

●10- スマートフォンの普及

●11- 東日本大震災



- 地デジへ完全移行

●12- ロンドンオリンピック

- 東京スカイツリー開業



●14- あべのハルカス

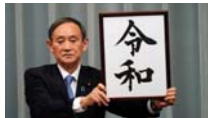


●16- リオオリンピック

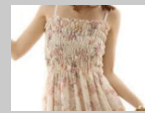
●17-GINZA SIX



●19- 平成から令和へ



○バイクブーム



○マキシワンピ



○チュチュスカート



○タトゥーストッキング



○モテ系



○コスプレ系



○花柄パンツ



○双子コーデ



○アスレジャー



○エグザイル系

○モデル・ブロガー
インスタグラマー

○ワントーンコーデ



○ブラウン族



2010 ICONS



2010 Chiffon



2012 SHAPES



2013 DIMANCHE



2013 SOJOURNERS



2014 ANIMA



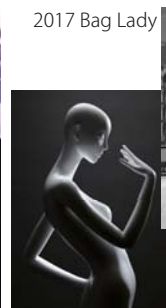
2014 Sketch



2015/2016 prairie



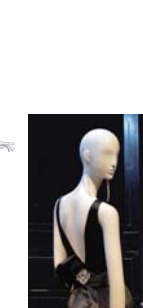
2016~Premium Adel



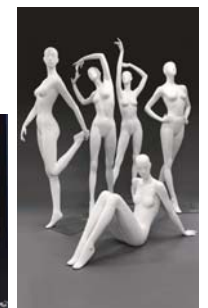
2015/2016 Sophie



2017 Bag Lady

2017/2018
Eight2017/2018
FLORA

2018/2019 Mellow



2019 Vivian

2015 QLOGO
(上半身・下半身)2016 QLOGO
(全身)2017 HEAD QLOGO
(首)2018/2019 QLOGO REACTIVE
(会話・感情表現)2019 Auto Guided
Stage 'MAI' (移動)